

成田国際空港及び周辺地域と圏央道を結ぶ
新たなインターチェンジに関する要望書

令和6年5月7日

千葉県

成田国際空港株式会社

成田国際空港及び周辺地域と圏央道を結ぶ

新たなインターチェンジに関する要望書

圏央道は、東京湾アクアラインなどと一体となって、首都圏の各都市と成田国際空港などの拠点間を環状につなぎ、首都圏の広域道路ネットワークを形成する極めて重要な高規格道路である。

県内唯一の未開通区間であり、県民や経済界からの期待も大きい「大栄・横芝間」は、昨年度示された「新たな開通目標」に向け、確実に事業が進められている。

一方、成田国際空港では、C滑走路の整備をはじめとした「成田空港の更なる機能強化」が進められており、また、空港周辺市町においては、機能強化を見据えた産業用地や住宅地の開発など、空港の機能強化に呼応したまちづくりが各地で進められている。

こうした空港を核とした産業拠点の集積や周辺地域のまちづくりの進展、機能強化によって増大が見込まれる交通量に対応するためには、空港及び周辺地域と圏央道との効率的なアクセスを確保する新たなインターチェンジの設置が必要である。

これまで、県と成田国際空港株式会社では、設置位置や構造に加え、整備手法について検討を進めてきたところ、更なる交通需要に対応するためには「地域活性化インターチェンジ制度」の活用が最適と判断したところ。

しかし、現行の制度は、高速自動車国道のみに適用されることから、国においては、下記事項に迅速に取り組みたい。

記

1 「地域活性化インターチェンジ制度」が、成田国際空港及び周辺地域と圏央道を結ぶ新たなインターチェンジに適用されるよう、所要の措置を講ずること。

1 成田国際空港及び周辺地域と圏央道を結ぶ新たなインターチェンジの事業化に向け、必要な助言を行うこと。

千葉県

千葉県知事

熊谷 俊人

成田国際空港株式会社

代表取締役社長 田村 明比古